

都筑 ウロデル 通信 (創刊号)

(2005年4月3日、木村泌尿器皮膚科発行)

膀胱炎を繰り返さないようにするには？

膀胱炎は、**大腸菌などの腸内細菌が尿道をさかのぼって**膀胱で増殖して起こる病気で、尿が近くなり、トイレから帰ってきても又すぐ行きたくなったり、尿をしたあともまだ残っている感じ(残尿感)がしたり、排尿時に痛みを感じたりします。血尿が出ることもあります。

診断は、尿検査でつけられます。**顕微鏡で白血球や細菌**が見えます。細菌性膀胱炎では、水分を十分に摂取して尿量を増し、抗菌剤を服用すれば、三日以内に症状はとれます。再診日に尿検査で白血球や細菌がいなくなったことを確認し、治療終了となります。

症状がとれた段階で抗菌剤を勝手に中止すると、再発することがありますので、渡された薬は、決められた通りに内服し、再受診して尿中の白血球や細菌がいなくなったことを確認してもらうことが大事です。

木村泌尿器皮膚科では、インターネットでの皮膚泌尿器科の疾患の解説に力を入れています。Yahooで「センター南 膀胱炎」を検索すると、より詳しい内容を見ることができます。

Q. ウロデルって何？

A. ラテン語で泌尿器はウロロギア、皮膚科はデルマトロギア、皮膚泌尿器を略してウロデルと言います。

Q. なぜ泌尿器科と皮膚科が一緒なの？

A. その答えは明治時代に遡ります。明治24年(1891)帝国大学医科大学を卒業した土肥慶蔵先生は、同26年(1893)文部省留学生として渡欧。独ハイデルベルグ大学で学んだのち、ウィーン大学で皮膚科学を修め、さらにドイツのブレスラウ大学でナイセルに泌尿器科学を学び、帰国後、東京帝国大学医学部教授となり、皮膚泌尿器科教室を設立しました。このため、皮膚科と泌尿器科を診られる門下生が、日本中に育っていったわけです。

(以下、2013年12月に内容を書き換え。)



院長紹介 医学博士 木村 明

履歴： 東大卒・東大病院医局長・東大講師・東京共済病院部長
泌尿器科専門医・超音波専門医

院長挨拶

横浜市都筑区センター南駅バスターミナル前の泌尿器科・男性皮膚科クリニックです。

院長の木村明は1953年生まれで、2013年還暦を迎えました。

1978年東大を卒業し、すぐ泌尿器科医になりましたので、泌尿器科に関しては35年のベテランです。

超音波医学会認定専門医でもありますので、結石・頻尿の方には院長自ら超音波検査を行います。

男性皮膚科は特に非露出部を得意としております。

泌尿器科学会認定専門医の院長が一人で診療しております。

皮膚科学会認定専門医はおりません。

得意分野を明確にするため、2013年、診療科目を泌尿器科・皮膚科から、

泌尿器科・男性皮膚科に変更しました。